

奥多摩の自然

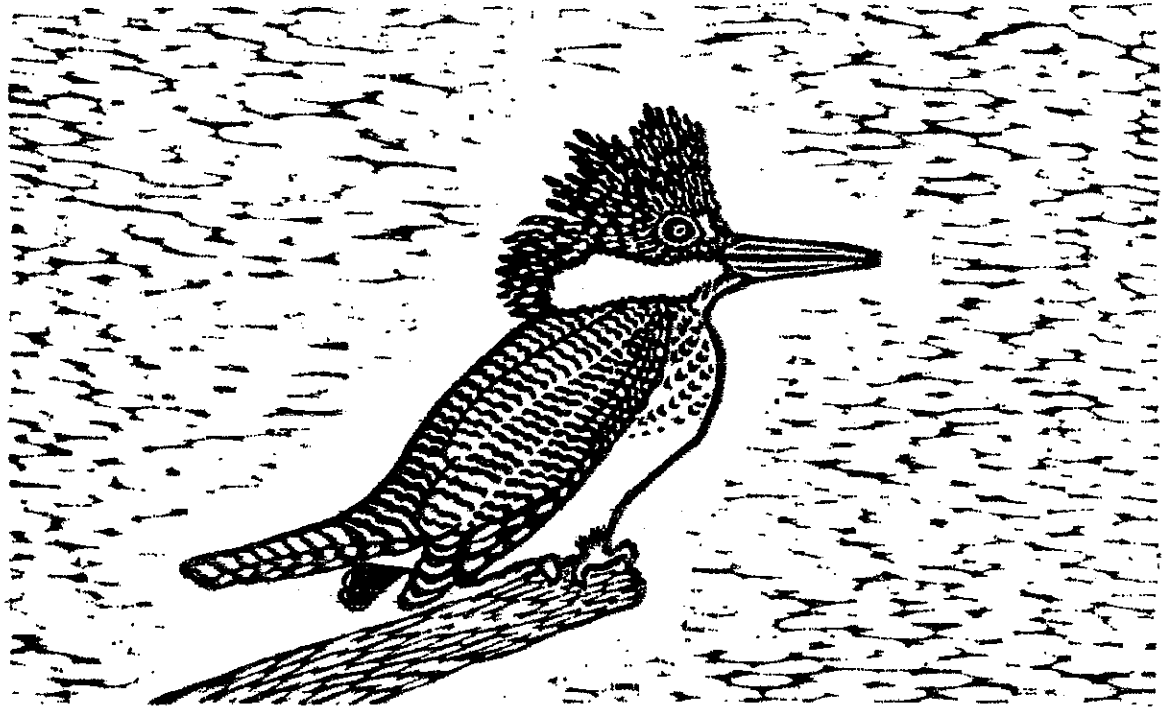


# 奥多摩

《第30号》

平成25年7月15日

奥多摩観光協会



木版画 安藤修二

夏、「水と緑の奥多摩」の季節です。ヤマセミが棲む奥多摩町の80%は、豊かな緑に囲まれ、そこには豊かな冷たい水があります。東京の名水57選のひとつ、「No.52 境の清泉」は、江戸時代からワサビを栽培し、「祥安寺山葵」の名で親しまれ、将軍家にも献上したとの言い伝えがあります。

大正12年発行の『東京府西多摩郡史蹟名勝誌』には、「水質透明清冽、然かも水量豊富……一度此泉を掬めば盛夏尚寒冷を覚ふる」と賞賛された名水で、21世紀の今も、その冷たさは格別です。そして、水質、水量とも変わることなく、天下の名水を誇っています。

今、人気の「奥多摩むかしみち」を歩かれるほとんどの方々が境の集落を歩くと、この由緒ある「境の清泉」に気づかずに通り過ぎているようです。現地に町の教育委員会が立てた奥多摩町自然文化百選の案内板に、「ひとたび、この水をすくえば、盛夏にして寒冷を覚ふる」とあります。

この夏、「奥多摩むかしみち」を歩かれる方は、ちょっと寄り道して境の清泉で奥多摩の「クールミズ」を体験してみたいかでしょうか。

ちなみに、東京の名水57選のNo.53は、奥多摩三山のひとつ川乗山の川井駅側からの登山口にある「獅子口の清水」です。東京都環境局のHPには、「川乗山の山腹斜面にあり、岩から湧き出る清澄な水が獅子の口から出るように見える。多くの登山者に愛飲されている」と記されています。

まだまだあります、奥多摩の名水。鍾乳洞のある日原には、「万寿の水」や「一石山神社の湧水」など、街道に面したところにあり、地元では、生活用水や手洗い水として利用されています。

8月1日は、水の日。この日から1週間は全国水週間です。遠くの避暑地より近くの奥多摩で水との出会いを楽しんでみませんか。当観光協会では、みなさまのおいでをお待ちしています。

## ～行って来たおよ～

### 奥多摩三山・御前山

奥多摩三山の一つカタクリが咲く御前山を5月8日に行ってきました。奥多摩駅前からバスで奥多摩湖に向かいました。ダムは貯水量65%と少ない。

奥多摩湖で下車して、ここで受付、あいさつ、トイレを済ませ、8時30分に出発し堰堤より「いいの路」に入りました。新緑のなかウツギの花が迎えてくれました。しばらく歩いて水久保橋の先二つ目の登山口から入りました。いきなりの急登を踏みしめながら歩くと防火帯に出ました。ジグザグに巻いて大平尾根を経て、小河内峠に到着しました。眼下に奥多摩湖が広がり大感激の面々。疲れが一気に吹っ飛んだようでした。

この先は尾根を歩いて惣岳山へ。期待していたカタクリの花はポツポツで少なくしかも終わりかけてで残念でした。その代りヤマエンゴサクが水色のかわいい花を咲かせていました。その花を横目に頑張っって急な道を登りあげると惣岳山に到着しました。

惣岳山頂でお昼になりました。お山のお昼ご飯は格

別においしかった。そして目指す「御前山」1405mに12時55分に到着し、山頂はまだ芽吹き前で見通しが良かったです。景色を見てから下山開始し、避難小屋方面に下りました。そしてカラマツ広場を通過して小道に出ました。右に回ってイタヤカエデの巨樹を見学。あまりの大きさと斜めに立っている姿に感動しました。以前のイベントの時にリスが現れ驚かされました。反対側の斜面にはシロバナエンレイソウが咲いていました。その後、トチノキ広場で一休み。トチの巨樹を見上げ、クワガタソウの花に癒されました。このあたり栃寄集落は標高600m程で、高尾山よりも高いのです。この後は過酷なコンクリートの急な下り坂で、疲れた身体にはこたえました。達成感と疲労とが入り混じり複雑でした。境橋バス停には、4時頃に無事到着し反省会をしました。4時29分発に乗車し奥多摩駅で解散しました。

我々ガイドは参加者がケガもなく満足してお帰りになる事が何よりです。(武田和代)

### 鷹ノ巣山

8:01 着の電車で参加者到着。トイレなしで、直ぐに鍾乳洞行バスに乗車。東日原で下車。受付、トイレを済ませて、協会の挨拶、ガイドの紹介、コース案内、準備体操の後 9:00 出発。中目原方向へ、車道から稲村岩に向かって左折。ここからいよいよ登りに入ります。稲村岩東壁の沢で小休止。この辺りの景観は最高です。沢沿いの絶壁、岩と木立のバランス、絵に描きたくなるくらいとても素晴らしい。稲村岩に到着。急登はこれからまだまだ続きます。参加者の脚は強く揃っています。しかし、雨が降って来ました。途中10分の休憩を2回取り、土砂降りの中、ヒルメシクイのタワで昼食。久し振りの立食。こんなに早く降り始め、強くなると思わなかったため、雨具は上だけにしました。結果、靴の中まで雨は侵入。最悪です。30分の昼食をしたので、全員至って元気。土砂降りの中、12:50 鷹ノ巣山頂に到着。

雨にもめげず、写真を撮りあっています。

雨が強くなければ、ここから山頂のツツジを見る事が出来るのですが、今日の頂上は、雨に煙っていてツツジの色も花も見ることが出来ません。山頂のツツジを見られなくても、また、周りの山々を見渡せなくても、この雨の中を全員頂上まで来られた事に対しては、賞賛すべき事と思います。またの機会を楽しみにしよう。頂上はそこそこに避難小屋へ。約20分で到着。相変わらず土砂降りの雨。小休止後、峰谷へ出発。リーダーを先頭にどんどん下ります。足の強い自信のある人が揃っていて大いに助かります。浅間神社、奥集落を過ぎても雨は止みそうにありません。16:45 峰谷に到着。此处でやっと雨が止んでいるのが判りました。

峰谷溪流釣り場まで歩いて、合羽を脱ぎ、トイレを済ませ、整理体操をして、各班毎、簡単に反省の場を持ちバスに乗車。奥多摩駅へ。16:45 解散。

(西原潤治)

## ～「奥多摩四季」その2～

### 「初夏の奥多摩と俳句」

5月5日は立夏である。奥多摩の若葉を吹き渡る風が何とも心地よい。私は3月31日で20年間お世話になった山岳救助隊を卒業した。もう奥多摩に仕事場はないが、何かにつけて奥多摩に行く機会は多い。

私は3年前から俳句を始め、いまそれにハマっている。角川春樹氏が主宰する「魂の一行詩『河』」の会員となり、奥多摩福祉会館で行われる月一回の奥多摩支部句会に出席している。

#### 山小屋にひとり寝てある立夏かな 俊

「河」奥多摩支部に講師として来られ、毎月ご指導頂いている鎌田俊先生の句である。鎌田先生は33歳という若さで機関誌「河」の編集長を務め、角川主宰の懐刀でもある。また登山を趣味としており、私も同行してよく奥多摩の山と一緒に歩いた。

掲句は単独で山に入った時のものであろう。「昨日は一日中山を歩き、無人の山小屋に泊まった。朝、窓が白んで目が覚めた。たったひとりで寝ている山小屋、シュラフに入り横たわったまま、外の清浄な山の空気を感じている。爽やかだ。ああそうだ、今日は立夏だったなあ」こんな感慨であろうか。孤独感が伝わってくる。ひとりで泊った朝の山小屋の経験がある私などには、たまらない一句である。

#### 人間は水なり夏の立ちにけり くにを

掲句は私が「河」に毎月投句していて、初めて角川春樹主宰からご批評を頂いた句である。主宰は、「上五中七にかけて、『人間は水なり』と大前提が置かれ、その水の上に『夏の立ちにけり』と結論が示されている。人間の軀の大部分が水分であることは、科学的にも立証されているが、一行詩の中で『人間は水なり』と断定されると、これが新鮮に響いてくる。」と評して頂いた。主宰からご批評を頂いたのは後にも先にもこの一句だけである。まったく不出来な門弟ではある。

鳥の事を書こう。「声のブッポウソウ」として知られるコノハズクは、「木の葉くらいの大きさのミミズク」という意味で、羽角（耳のように見える羽）がある。フクロウの仲間では最も小さい。珍しい野鳥と言われているが、初夏の若葉の頃になると夜の奥多摩の山ではよく聞くことができる。御岳山のブッポウソウは全国的にも有名だ。江戸文政年間の「武蔵名勝図絵」に載っているというから古くからの御岳山はコノハズクの営巣地だっ

たのだろう。

スギやヒノキの大木がある社寺などの深い森に住む赤い嘴をもつカラフルなブッポウソウが「仏法僧」と鳴くありがたい鳥と長い間言われてきたが、これがコノハズクの鳴き声であると分かったのは昭和10年になってからのことである。以後ブッポウソウ科のそれは「姿のブッポウソウ」。コノハズクは「声のブッポウソウ」と呼ばれることになった。

私はコノハズクの鳴き声を日原の奥や小河内の奥などで聞いた。私が山岳救助隊員になって間もない頃、転落死した若い男性登山者を大雲取谷から引き上げ、仲間と登山道を背負い降ろしたことがある。夜になって小雨が降り出し、ヘッドランプの灯りで下りて来るとき「ブッポウソウ。ブッポウソウ」と沢の対岸から聞えた、その物悲しい金属性の鳴き声が、今になっても耳にこびり付いている。

#### 遭難のむくろ負ひ来て木葉木菟 くにを

その時の何ともやりきれないむなしさを句にしたものである。

青葉のころ、夏鳥として南方から渡ってくる中型のフクロウにアオバズクがいる。「ホッ、ホッ。ホッ、ホッ」と二声ずつ鳴くのが特徴で、奥多摩でも鳴いているところは多いが、奥氷川神社の三本杉には昔から営巣している。交番前の巨杉で短い夏の夜を鳴き続けるのである。

アオバズクももちろん夜行性で小鳥、大型の昆虫、ヘビなどをとる。羽角はない。一夫一婦制で同じ相手と一生添い遂げるというから、人間から見れば立派な鳥だと思う。

ここ数年、声を聞く機会がなかったが、今年5月のある夜、私が奥多摩の飲み屋を出ると、三本杉の上から「ホッ、ホッ。ホッ、ホッ」とアオバズクの声が聞えて来たのだ。久しぶりに聞くその澄んだ鳴き声は、神代から聞えてくるような悠久の声であった。私は立ったまま時を忘れその声を聞き続けたのである。

#### 青葉木菟塔より天に水の音 春樹

これは魂の一行詩「河」の角川春樹主宰の句である。巨樹のてっぺんで一夜を鳴く青葉木菟と呼応するように、古い高塔の先端である九輪上部に設置された水煙、そこから果てなき宇宙にと放出される幽かな水音を聞く心象であろう。漆黒の夜の静寂を鳴き続けるアオバズクよ。

(元 青梅警察署山岳救助隊副隊長 金 邦夫)

# 平成25年度(8月～平成26年3月) 会員募集中 (奥多摩町・観光協会)

奥多摩観光協会では、今年度、会員様限定で下記のようなイベントをご用意しました。会員限定のイベントですから、安心して参加できます。

①年会費1000円 5回参加すれば、奥多摩温泉「もえぎの湯」無料券(700円相当)をプレゼント。さらに6回目は参加費無料。

②1回の参加費は、特に記載がない場合は、700円(保険代等)。路線バス等での移動費用は各自負担です。

すべてのイベントには、「奥多摩観光協会 名人・達人観光ガイドの会」のベテランガイドが3～5人でご案内いたします。

会員参加希望者は、往復はがきに「住所・氏名・電話番号」を明記のうえ、奥多摩観光協会宛にお送り下さい。なお、同一はがきでイベント申し込みを受付けますので、No.とタイトル名を1件ご記入ください。入会手続き等は、参加当日にお願ひいたします。

一般社団法人 奥多摩観光協会  
〒198-0212 奥多摩町 永川 210  
電話 0428-83-2152

No.	イベント		開 催 日	締切日 (当日着迄)	募集 人数	種 別	所要時 間
	タ イ ト ル	目 的 地 or コー ス					
1～16	☆好評 実施済						
17	山里歩きベストチョイス③ 小丹波・棚沢	古里・阿弥陀堂～鳩ノ巣・将門神社, 薬師堂	8月 8日(木)	7月25日(木)	20	ハイキング	5時間
18	丹三郎から御岳山のレンジョウマを訪ねる	古里駅～大塚山～御岳山～鳩ノ巣駅	8月21日(水)	8月 7日(水)	20	登山	5時間
19	川苔山	奥多摩駅～川乗橋～川苔山～鳩ノ巣駅	8月29日(木)	8月15日(木)	20	登山(健脚)	7時間
20	山里歩きベストチョイス④ 峰谷・原	峰谷橋～普門寺～峰集落	9月12日(木)	8月29日(木)	20	ハイキング	5時間
21	棒ノ折山	清東橋～棒ノ折山～名坂峠～川井駅	9月18日(水)	9月 4日(水)	20	登山	6時間
22	越沢溪谷の巨樹を訪ねて	古里駅～松ノ木尾根～巨樹～鳩ノ巣駅	9月27日(金)	9月13日(金)	20	ハイキング	5時間
23	柳田國男ゆかりの旧峰集落(廃村)を訪ねる	古里駅～峰集落～鳩ノ巣駅	10月 2日(水)	9月18日(水)	20	ハイキング	5時間
24	本仁田山頂からの眺望を楽しむ	奥多摩駅～安寺沢～本仁田山～鳩ノ巣駅	10月11日(金)	9月27日(金)	20	登山	6時間
25	「郷土料理と昔話」を楽しむ(昼食付2,000円)	奥多摩湖～青目立不動～むかし道～中山	10月22日(火)	10月 8日(火)	20	ハイキング	5時間
26	三ツドツケ(天目山)	東日原～ヨコスズ尾根～三ツドツケ～棒杭尾根	10月31日(木)	10月17日(木)	20	登山(健脚)	7時間
27	紅葉の倉沢谷を歩く	日原方面・倉沢林道終点・魚止橋まで	11月 6日(水)	10月23日(水)	20	ハイキング	5時間
28	紅葉の鹿倉山を訪ねる	陣屋～大寺山～鹿倉山～小菅	11月14日(木)	10月31日(木)	20	登山	7時間
29	山のふるさと村トレイルを歩く(昼食付1,500円)	峰谷橋～山ふる～蕎麦打ち体験～散策	11月20日(水)	11月 6日(水)	20	ハイキング	5時間
30	紅葉真っ盛りの倉戸山	女の湯～倉戸山～水とみどりのふれあい館	11月22日(金)	11月 8日(金)	20	登山	6時間
31	バードウォッチング	コース未定(お楽しみに)	12月 3日(火)	11月19日(火)	20	ハイキング	5時間
32	バードウォッチング	境橋～体験の森～境橋	3月12日(水)	2月26日(水)	20	ハイキング	5時間

# 奥多摩昔語り

## 奥多摩の年中行事(3)

正月行事つづき

七日 棚沢の熊野神社、将門神社の例祭

棚沢の神社は、東側に将門神社、西側に熊野神社があり、むかしは、舟川沢を境にして氏子が分かれていたといひます。将門神社は、明治41年(1908)に本殿、将門霊像、灯笼などをもって、熊野神社に合祀されましたが、昭和50年に旧地に総檜造りの社殿が再建されました。将門神社の内陣には、赤坂氷川神社の将門神像を模して造られた馬上に弓を携えた将門の銅像が安置され、境内には、元将門宮の神職三田家所蔵の護符像影から写しとった御幸姫観音像が造立されています。御幸姫は、将門神社の下方、住安戸(すまいど)通称、将門原(まさかどっばら)にあった御幸塚(みゆきづか)の主のことで、将門の寵妃とも娘ともいわれています。

八日 やっかがし

大丹波では、目籠(めきなし)へ柵の枝と黒く

こがした鬮の頭をさして門口へ伏せておき、この籠で悪鬼を防ぐ、まじないをしました。

十日 古里地区では、びしゃまつりがありました。

十一日 蔵開き

土蔵を開けて蔵神様へ供え物をしました。この日は鏡開きともいい、神棚から鏡餅を下げて食べましたが、年神様へ供えた大鏡餅は、1月20日の恵比寿さまへ供えるため残しておきました。

梅沢 薬師堂 あずき粥まつり。

棚沢 薬師堂 あまさけまつり。

栃久保 薬師堂縁日。

【資料】 奥多摩町誌、広報おくたま

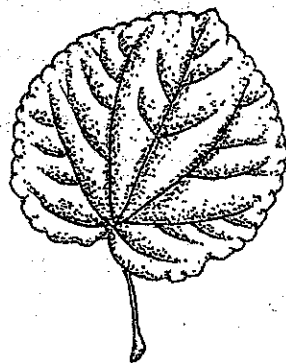
(奥多摩郷土研究会会員 岡部義重)

## この木なんの木

カツラ 一岩の上の“からくり”

梅雨空のもと、日原川のガニ沢の出会いにカツラの巨樹を尋ねました。巨樹は岩を噛む清流のそばで、巨岩を踏みしめ、傲然とそびえていました。新緑をみっしりつけた太い枝の下で、おどろき仰ぐ私の面を、冷気が心地よく流れ去っていきました。

ところで、巨岩の上に巨樹が生えているその“からくり”は何なのでしょう。カツラは翼をもった小さな種子をたくさん落とします。



カツラの葉

しかし、落ち葉が積もった場所では、種子が小さいので、持てる養分が少なく、根を地中にまで伸ばせずに死んでしまいます。しかし、谷川で時折おこる洪水で落ち葉が流されたあとの岩や砂地で、そのはざまにあって、かろうじて止どまることができ

た種子は、発芽し、生長します。すなわち、洪水がカツラの仲間を長らえさせているといえます。

ですから、長年にわたって洪水が起こらない河原では、カツラはシオジやサワグルミとの競争に負けて枯れていきます。まさにカツラはゴロゴロ石だらけの逆境には強いが、競争には弱い樹木なのです。

カツラはまたその根元から沢山若い枝(萌芽枝)を伸ばし、主幹が倒れてもその後を継ぐ手だてをこうじています。

カツラの秋は、黄葉が鮮やかです。この時期、カツラの木の下に立つと、独特な甘い香りがします。香りの主成分はマルトース(麦芽糖)です。一年間のフィナーレにあたって、佳き香りを放つとは、何とも素敵なことですね。カツ(香出)ラからカツラの名が生まれたとが、奥多摩では、“しょうゆの木”として人々に親しまれています。(橋上一彦)

# ガイドだより

～奥多摩模様～

奥多摩は、植物・野鳥・昆虫・野生動物、水も空気も、山も川も、豊かな自然に恵まれています。

ガイドしていてよく「ここも東京ですよ。」と言います。四季を通じていつ来ても何かしら収穫があります。

最近のガイド歩きでの出来事を紹介します。

御前山では、カタクリが咲いているかなあと心配しながら心肺を使って登りました。そして、昼食は景色をおかずにいただきました。下山は注意しながら頭を使いつつ脚力で下り、その達成感は最高でした。期待していたカタクリは残念でしたが、水色麗しいヤマエゴサクを見ることができ感激しました。

いこいの路は、深緑が目にも優しく奥多摩湖から風が吹き抜け、気持ちよかったです。ときには、ヤマドリが飛び出して驚いたことも。今春は、ジムグリ(ヘビ)に出会い思わず飛び上がってしまいました。

山里歩きでは、奥多摩町内を散策します。昭和の面影がここに残っています。というか変わらない町がそこにあります。むかしみちでは、いにしえの人々が歩いた道に歴史を感じつつ、自然を堪能しつつ歩きました。先日、丘陵でカモシカの親子連れと出会いました。シマヘビにも会いました。

春は新緑、夏も深緑、秋は紅葉、冬は野鳥観察と四季折々楽しめます。散策、癒し、山歩きと、日々発見がありおすすめです。

近ごろはストレス社会とかでギスギス……。自然と対話していると気持ちがスッキリします。そして元気になります。  
(武田和代)



## 施設案内

### 手造り工房「四季の家」

#### 「奥多摩天然水」と「天然醸造みそ」

奥多摩総合開発(株)のアンテナショップ「四季の家」では、「境の清泉」を源水とした、天然ミネラルウォーターと本格手造りみそが人気です。

JR白丸駅直下の国道沿いにある「四季の家」のいちおしは、本格手造りの天然醸造みそ。「麦みそ」と「米みそ」とがあります。

四季の家 奥多摩町白丸313 Tel 0428-83-3365

営業時間 11:00~16:00

定休日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、火曜日)

※ 奥多摩総合開発のHPからも購入できます。

## 通行止めのお知らせ

### (1) 奥多摩むかしみち

水道管の新設工事のため、7月8日から、およそ1年間、日曜・祝日を除く毎日、むかしみち入口から槐木(さいかちぎ)までの間は通行できません。

そのため、奥多摩湖方面に行く方は、奥多摩駅から国道を橋詰バス停まで歩いてから、むかしみちコースに入ってください。

### (2) 日原小川林道

日原鍾乳洞の上流部の小川林道は、落石の危険があり当分の間、通過できません。鍾乳洞見学には支障ありませんが、駐車場が狭いのでバスをご利用ください。なお、金袋山のミズナラ巨樹へは、一石山神社から登ることができます。

### (3) 白丸湖右岸の遊歩道

白丸湖右岸の数馬峽橋～白丸魚道間は、土砂崩れのため通行できません。国道に迂回して、鳩ノ巣渓谷の遊歩道へ行くことができます。

### (4) 海沢林道上流部

崩壊箇所があります。十分ご注意ください。

※詳しくは、駅前の観光案内所にお尋ねください。

次号発行予定：平成25年10月15日

発行：奥多摩観光協会

住所 〒198-0212 奥多摩町 氷川 210

電話 0428-83-2152 Fax 0428-83-2789

編集 名人・達人観光ガイドの会